

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業日 目：林業振興費

事業名 施設整備費（森林文化アカデミー）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 林政課 森林文化アカデミー 総務課 電話番号：0575-35-2525

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 9,772 千円 (前年度予算額：3,331 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,331	0	0	0	0	0	0	2,400	931
要求額	9,772	0	0	0	0	0	0	0	9,772
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・森林文化アカデミーの施設は、平成12年に特徴ある木造建築で造られたが、築後相当期間が経過し老朽化が著しい。
- ・特に、常に雨にさらされる、屋根等のない箇所が普及が著しい。
- ・また本学の敷地は門柵塀が無く、構内道路は一般地域住民が自由に通行することができるなど地域に開かれた施設である。学生はもとより地域住民に対しても施設破損による事故発生の危険を防止するため、修繕が必要である。
- ・施設の長寿命化を図るべく、施設改修を実施する。

(2) 事業内容

施設改修を実施する。

1. 長寿命化計画対象施設の改修のための調査
 - ・建築後20年以上経過し老朽化が進んだ建物を木造建築の特性を生かして、長期に渡って使用を可能にするために、構造部分も含めた調査を行う。
(森林文化アカデミーセンター棟)
2. その他の施設の改修等
 - ・警備委託方法の変更に伴う既存警備設備の撤去および、扉鍵の交換工事
 - ・床面の不陸解消のための工事に伴う通信設備・電話の移設
(森林開発・支援センター センター棟2階)
 - ・来訪者のご接触による危険防止のための林業短大記念碑の移転
 - ・倒壊の危険のあるセンター棟前の格子壁の撤去

(3) 県負担・補助率の考え方

県公共施設修繕のため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

- ・ 県有施設修繕費（総務部管財課）

単発的な比較的小規模な修繕を想定しているもので、計画的に行う修繕は各部において対応する。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事委託料	2,376	センター棟建物調査委託
工事請負費	7,396	警備設備の撤去工事、電話設備移設、記念碑移設、格子壁撤去
合計	9,772	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

- ・ 木造建築については建物を長期に使用するためには、構造も含めて定期的に補修をする必要があるため、長寿命化計画に併せて整備を進めるために構造を含めた建物の点検を実施していく。
- ・ 建物が複数棟存在し、すべてが築後20年を経過することから、老朽化に伴い修繕箇所が増加していくと思われる。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・森林文化アカデミーの建物・施設の腐朽部分を長寿命化計画に沿って、施設改修を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

- ・既存建物・施設を修繕するものであり、数値的な指標を設けることは困難。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・森の情報センター及びテクニカルセンター空調設備更新工事 ・林業機械学習棟火災報知器設備設置工事 ・ガスバルクタンク撤去委託 を実施し、施設環境の向上を図ることができた。
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・開放試験室の空調設備更新工事 ・昇降機改修工事 ・フロンガス回収業務委託 ・ウォータークーラー設置工事 を実施し、施設環境の向上を図ることができた。
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>アカデミー学生の他、生涯学習、短期技術研修で多くの一般県民なども利用する施設であり、安心安全に学習・研修を受けていただくために、普及した建物・施設を修繕する必要性は高い。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>老朽化による危険個所を集中的に修繕している。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>修繕は今後の維持管理について考慮した工法を検討している。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 建築後相当期間が経過し、建物・付随施設の更新時期（耐用年数を超えている）のため、順次修理・更新等の対応が必要である。 大規模修繕に至る前に、日常のこまめな維持補修を行うことでトータルコストの削減を図ることが期待できるので、必要な経費の適切な配分が求められる。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 森林文化アカデミーは県の森林技術者育成機関として、森林技術者が高齢化する中で重要性を増している。このため、アカデミー施設の延命、安全化を図るべく施設修繕整備を進める。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>庁舎営繕工事【管財課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	<p>施設間の対応標準化</p>